

2025年度亀田医療大学2年次後期開講科目高齢者看護学概論について

(連携組織)

鴨川市福祉総合相談センター

(実施学部・学科)

亀田医療大学看護学部看護学科

(授業概要)

高齢者の健康増進やQOL (Quality Of Life) の向上についての学問的追求と知識の向上を図ることは、長寿社会を迎えた日本、特に高齢化率の高い南房総地区においては重要な課題である。このコースは、高齢者を身体・生理的側面、ライフステージ、社会的な側面から理解し、適切な看護を実践するための理論と技術を学ぶ。

(開講目的)

◆2025年度シラバスにて記載

(目的)

高齢者看護学の基礎的理解のために、高齢者の理解を深め、高齢者にとっての健康とは何か、幸せとは何かについて考える。そのうえで高齢者の希望や生きがい、健康レベルに応じた看護実践に求められる基礎的な知識と技術と態度を習得する。

1. 高齢者を取り巻く社会状況や保健医療制度について説明できる。
2. 高齢者の発達課題や健康について自分の考えを述べることができる。
3. 高齢者の加齢に伴う身体的、心理的、社会的特徴について説明できる。
4. 高齢者が保持している能力を活用しながら看護を展開する必要性と、その方法について説明できる。
5. 身体・精神機能の加齢変化を理解し、予防的視点から高齢者看護について説明できる。
6. 高齢者看護に応用される理論について述べることができる。
7. 高齢者看護領域における倫理的問題について説明できる。
8. 老いること、死んでいくことについて自らの考えを述べることができる。

(具体的な内容)

◆2025年度シラバス授業計画〔6〕〔7〕〔13〕〔14〕

〔6〕〔7〕

鴨川市老人クラブの方を迎えて、本学の学生、教員、鴨川市保健師で「高齢者向け新体力測定&交流会」を行う。その中で、高齢者との実際の交流を通してコミュニケーションを図

り、高齢者の考え方やライフスタイルを知り価値観や健康観に触れることで高齢者看護の視点を養う。また対人援助に必要な姿勢や関わり方を学ぶ。高齢者には、新体力テストを通じて、自身の体力や健康状態を再確認するきっかけとなり、また、若い世代と交流することで社会とのつながりを感じてもらい、社会的な役割として自分の経験や価値観を伝える機会となり、自己肯定感が高まる。

〔13〕〔14〕

鴨川市のソーシャルワーカーによる講義「高齢者の権利擁護と倫理的課題」と、市職員・介護職員・本学学生が協働で演じる高齢者虐待事例の寸劇を鑑賞し、高齢者における倫理的課題や虐待防止に向けた対策を専門職として、地域住民として考えることをレポート課題としている。学生のレポートは鴨川市へ提出し、授業の評価や成果を確認している。

（地域における課題）

鴨川市及び安房郡市における高齢化は慢性疾患の増加や認知症、MCI の発症など、多疾患併存を引き起こすことが予測される。高齢者がより健康で生活機能を維持できるよう、健康寿命の伸延のための予防や健康管理の意識啓発が求められる。鴨川市の未来を描きながら行政や病院等、様々な専門職とともに住民を含めた地域全体で取り組む必要がある。高齢者のみならず、すべての人が住み慣れた鴨川で最期まで豊かに暮らせるよう、社会の在り方や高齢者の暮らしと、高齢者にとってのいのちの質、生活の質、人生の質の理解が求められる。